

やどかりの里発！地域発見マガジン

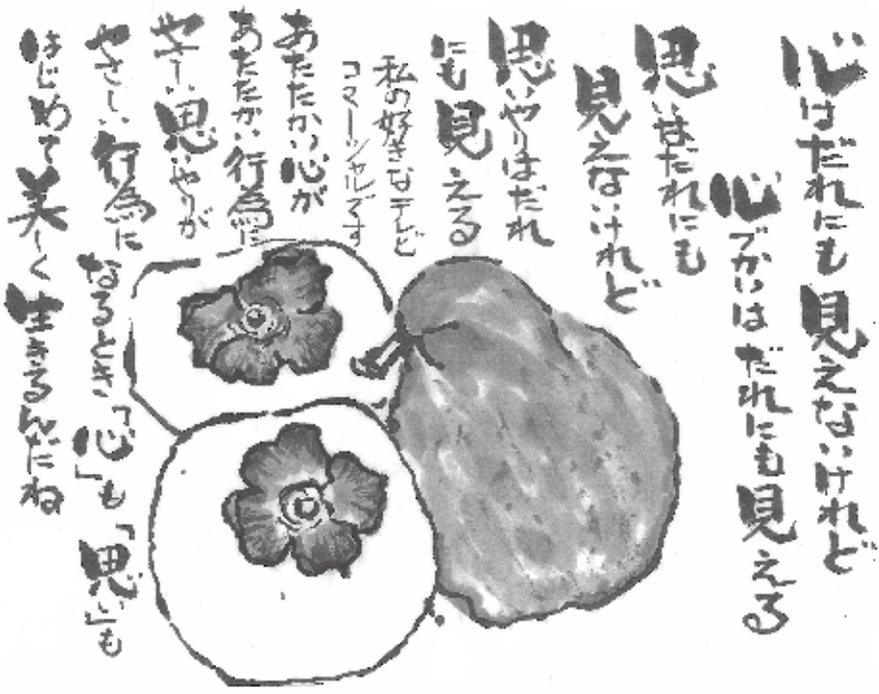
大宮見沼

# よみさんぼ

第3号

特集

## 民による新しい大宮のまちづくり





# 特集

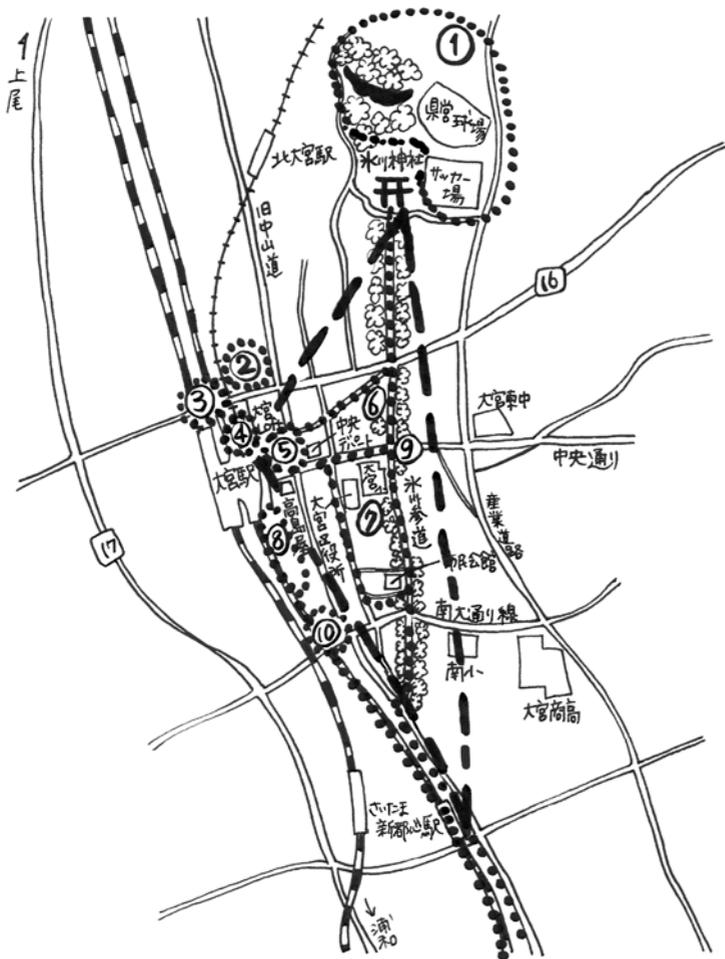
# 民による新しい

## 松本市のまちづくり大宮駅東口

## 13のまちづくり構想

### GTPプラン発表

コーディネートライヴ



- ① スポーツ都市“大宮”推進構想
- ② 北銀座再生構想
- ③ 鉄道見学施設構想及び大栄橋再構築構想
- ④ 大宮駅北口(氷川口)開設構想
- ⑤ 大宮駅東口駅前再生構想
- ⑥ 街の回遊性構想
- ⑦ 区役所移転(行政・公共用地利用/再編)構想
- ⑧ 南銀座再生構想
- ⑨ 氷川参道を活かした、まちづくり構想
- ⑩ 大宮駅東口・さいたま新都心遊歩道構想
- ⑪ 地下利用構想
- ⑫ シンボル施設構想
- ⑬ 大使館村構想



# 大宮のまちづくり

大宮駅は14の路線が乗り入れる「東日本の玄関口」で、日本有数のターミナル駅だ。大宮駅西口は整備され、さながらオフィス街のような無機質な雰囲気だ。一方の大宮駅東口には、大通りには大きな商業ビルが立ち並び、一步路地に入ると、小さなお店が軒を並べる。駅から歩くこと10分ほどで2000年以上の歴史がある大宮氷川神社の参道にぶつかる。大宮駅東口は哀愁と喧騒が同居する、不思議な空気が漂っている。

その氷川参道の近くに「大宮区障害者生活支援センターやどかり」があり、天沼地区にはやどかりの里の働く場である「喫茶ルポーズ」「あゆみ舎」が活動している。大宮駅東口からバスに乗って、やどかりの里のさまざまな事業所に通ってくるやどかりの里のメンバーや職員も多く、やどかりの里にとってはおなじみのエリアである。よみさんぽ編集部はこの慣れ親しんだ大宮の再発見を目指して取材に歩いた。

## 久世 晴雅さん（久世造花工芸代表取締役）

大宮駅周辺の賑わいの中で危機感をもつ人たちがいる。大宮駅東口エリア（大宮駅東口を中心に、氷川参道～さいたま新都心を結ぶ三角形のエリア）の、新しいまちづくりを目指す大宮駅東口協議会に集う人たちだ。その中心的な役割を担う会長の久世晴雅さんにお話を伺った。久世さんは長く大宮で暮らし、氷川神社と参道の緑をこよなく愛し、大宮アルディージャを応援し、自分たちの住むまちで「民によるまちづくり運動」を5年にわたり展開している。歴史ある大宮に新しい息吹を吹き込み、行政や大企業にお任せでないまちづくりが始まっている。



久世さんは大宮中央ロータリークラブの要職に就かれていた頃から、いつも



やどかりの里の活動を気にかけて、応援してくださった方であり、大宮について伺うなら久世さんと思い、お話を伺った。

久世造花工芸は1958(昭和33)年創業で、造花や看板などの製造販売を手がけてきた歴史ある会社である。氷川参道に面して会社がある。久世さんにお仕事や会社のことを伺っていると、実は今、ライフワークは「大宮のまちづくり」なのだとされる。

久世さんは「このままでは大宮の東口はダメになってしまう」「全国チェーン店が次々出店し、地元商店が無くなっていく」という危機感を募らせ、駅周辺の自治会長、商店会の仲間、ビル所有者に声をかけ、2007(平成19)年に「大宮駅東口活性化懇談会」を立ち上げた。さらに論議を重ねて、2009(平成21)年4月には現在の「一般社団法人大宮駅東口協議会」(略してOEC Omiya station East entrance Conference)となり、その代表として活動中だ。

## まちづくりを考える市民団体－OECの13の提案

さいたま市は2010(平成22)年には「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」を公表し、大宮駅東口周辺の耐震性や老朽化などの課題を抱える公共施設を再編して大宮駅東口再開発の計画をスタートさせている。また都市計画道路「氷川緑道西通線(区役所通り)」の拡幅、公共用地の利用基本計画など、官による整備計画が具体的に進行して、2012(平成24)年度中には大宮区役所の移転計画などが決定されて、計画は着々と進行している。

そうした行政の動きに対して、大宮駅周辺には多くのまちづくりを考える市民団体があり、その中心となっているのがOECだ。

OECでは、まちづくりを行政に任せるのではなく、市民自らが考え、提案することを目指して、全国のまちづくり先進地区を視察してまわり、2009(平成21)年9月からは毎月例会を開き“大宮の将来像”や“大宮駅東口をどんなまちにしていけばいいか？”について多様な立場の講師陣を招き、学び、積極的に活動を展開している。

企業からの提案、学生からの提案(埼玉大学、宇都宮大学、芝浦工業大学、日本大学)、行政を代表してさいたま市の清水勇人市長の講演と、まさに官、民、学、企業がそれぞれの立場でさまざまな角度から意見を述べ合い、議論が重ねられ



てきた。その結果、OECとしてまちづくりへの13項目の提案（2ページ・地図参照）を公表している。こうした市民による新しいまちづくり提案は、行政案にも反映されて新しいまちづくりへの原動力にもなっている。

### 新しい大宮の文化と交流を創る「アートフルゆめまつり」

さらに久世さんは、2008（平成20）年から開催されている「アートフルゆめまつり」の実行委員長でもある。「アートフルゆめまつり」は毎年4月に大宮駅東口エリアのあちこちで、参加団体が演奏し、踊り、観て、聞いて……パフォーマンスを楽しむお祭りで、参加団体は120を越えている。「大宮に暮らし集う人々が作り手となり、それぞれが希望（ゆめ）を表現する中で地元の事業者、商店、企業、行政、福祉団体等との連携、協働を通して新たなまちをともに作り上げる」という趣旨のもと、新しい大宮の文化と交流を作るイベントとして盛大に、賑やかに行われている。

従来、まちづくりをめぐる市民と行政の関係は、「行政の提案に対して反対する市民」という枠組みを越えることが大きな課題だった。しかしOECの活動は、学習し、知識を身につけ、お祭りなどの文化を創りながら、市民自らが公共性を考え、提案する「行政との協働」という新しい形を実現しつつある。

久世さんたちの活動は、まちづくりとしても、市民運動としても画期的で、新しいあり方を提示している。そんな市民の熱い想いに後押しされる大宮駅東口は、今後どのような変貌をとげるのだろうか。

いつも、人ごみを避けるようにあわただしく通り過ぎるだけの大宮駅だったが、久世さんの優しい笑顔を思い出し、来年は「アートフルゆめ（希望）まつり」にも参加してみよう……などと思うとなんだかワクワクした気分で、駅の印象が大きく変わって見えた。（記 野田 妙子）

### インフォメーション

#### 音とアートでつながる 希望（ゆめ）のまち「おおみや」

2013年4月21日（日）アートフルゆめ（希望）まつり開催。詳細はHPをご覧ください。  
<http://www.aymo.jp/index.html>

# よみせんぽ日誌

さいたま市大宮区天沼にあるあゆみ舎。精神障害のある人たちが、企業からの下請け作業やメール便配達などに取り組んでいます。今回はあゆみ舎の受注先企業を取材しました。

## 株式会社BML メディカルワークス 横屋 直幸さん

(株)BML メディカルワークスは臨床検査の受託業務などを行う(株)ピー・エム・エルの関係会社で、医療用器材等の作製・供給サービスを業務としています。長年障害者施設に仕事を発注してきた実績があり、あゆみ舎も病院や企業健診で使用する採尿キットづくりを4年前から受注しています。川越にあるBML 総合研究所を緊張しつつ訪問しましたが、総務課長の横屋直幸さんの穏やかな笑顔に出迎えられました。横屋さんはあゆみ舎の丁寧で納期を守る仕事ぶり等を評価されていました。また、採尿キットは季節によって発注量が増減するため、それがあゆみ舎の業務に影響していないか、気遣ってくださっていました。企業とつながりながら活動していることを実感した取材となりました。

## 株式会社喜久屋 増野 貴弘さん

さいたま市北区にある喜久屋は内職の斡旋がメインの企業です。あゆみ舎との出会いは今年5月。あゆみ舎の職員が仕事確保に奔走していた時に、偶然この会社を見つけました。若きオーナーである増野さんは気さくな人で、あゆみ舎へも足を運んでくださいます。取材で会社に伺うと、作業スペースではパートの人や地域の若者たちがあゆみ舎と同じ作業に取り組んでいました。増野さんは内職斡旋という仕事に取り組むことで、地域の雇用を生み出し、地域に貢献したいという強い信念を語ってくれました。また、あゆみ舎との出会いをきっかけに、市内数か所の障害者施設に仕事を発注するようになり、下請け作業を障害者就労に役立てられないか、関心も広げてくださっています。喜久屋もやどかりの里も地域を意識した活動をしています。将来どんなコラボレーションが実現できるのか、ともに考えていきたいと思いました。(記 堤 若菜)

## やどかりの里の仲間たち・2

### ひとり暮らしと仕事を両立したい

八木橋ルリ子さん (37歳)

あゆみ舎で働いて1年3か月になります。以前はホームセンターの品出しの仕事を5年間していました。仕事や人間関係のストレスで体調を崩し、入退院を数度繰り返しました。退院後体調が良くなってきたので、こころの健康センターや区役所で相談したところ、やどかりの里を紹介されました。あゆみ舎の仕事は手の遅い自分でもできるなと感じました。たいへんなこともあります。人間関係も良好でやりがいを感じています。ゆくゆくは一般就労したいですが、まずはひとり暮らしを進めていきたいです。やどかりの里は家の中や一般就労ではできない、いろいろな練習や訓練ができる場所です。やどかりの里を利用して、自分に合った仕事について、ひとり暮らしにも慣れて自分で家事などができるようになっていきたいです。

### ルポーズがあるからいいんだよなあ……

星野 明男さん (57歳)

やどかりの里に来て21年が経ちます。調理の腕を買われて、ルポーズが設立されたのを機にルポーズで働くことになりました。ルポーズがあつてよかったなあと思います。仕事をしていないと不安になるし、何もせずにぶらぶらしていると何をしているのだろうという気持ちになってしまいます。現在は週4日、閉店後の1時間、調理場の鍋やコンロを洗う仕事をしています。若い頃に東京銀座の三笠会館でコックをしていた経験があり、飲食店の仕事には自信があります。昔取った杵柄です。1人でこつこつできる仕事は自分に合っていると思います。仕事が休みの日にも、客としてルポーズで過ごしています。必ず知っている誰かがいるので、顔を見るとリラックスできるのです。歳を取ってもお茶を飲み、みんなに会いに来たいです。

# あなたの街のやどかりさん

## 喫茶ルポーズ

街の憩いの場として営業中！

今年の2月に店内の改装を終え、地域の中で気軽に立ち寄れる喫茶店として、ますます多くのお客さまにご来店いただいています。「ルポーズ」とはフランス語で「憩う」という意味です。街の中の喫茶店として、誰もが憩えるお店としてその名が付けられました。

### 手づくりでよりおいしく、とにかく手を抜きません

すべてのソースを当店で仕込んでいます。特にビーフカレーやキーマカレーで使う玉ねぎは、あめ色になるまでじっくり炒めています。それだけで1時間をかけるほど……玉ねぎ同様、肉もじっくり炒めるのがおいしさの秘訣。肉汁をすべて飛ばし、肉本来のうまみを引き出すのにこちらも1時間以上炒めています。このように徹底的に手を抜かない仕込みが、お客さまに「おいしい」と感じてもらえるルポーズのメニューにつながっています。

### 画廊展示コーナー、雑貨販売コーナー、貸スペースもやっています

月変わりでさまざまなアートや手づくり品が目を楽しませてくれます。展示や販売コーナーは1か月無料。絵や写真はもちろん、壁に飾れるものならなんでもオーケー。貸スペースは2階客席ホール（14席）をそのままご利用いただけます。教室やサークル活動などご自由にお使いください。詳細はお気軽にお問い合わせを。

### 店頭販売も新たに始めました

毎週（火）（水）限定で作りたてのお弁当を店頭で販売しています。今年から始めたばかりですが、毎回買いに来てくださるお客さまもいますので、とても嬉しくやりがいも感じられますね。喫茶メニューではないお弁当用の特別な献

# 第3回

喫茶ルポーズはやどかりの里が運営する障害のある人の働く場です。30年以上にわたる長期入院を経験したメンバーの「喫茶店で働く夢」からスタートした喫茶ルポーズは、オープンしてから16年を迎えました。

立なので、私たちの調理技術の向上にも一役買っています。

夏季限定（8月～9月）ですが、店頭にて採れたての梨の販売も始め、たいへん好評をいただきました（次ページで紹介）。10袋以上買っていただいたお客さまもいました。今年の販売は終了しましたが、来年はさらに多くのお客さまに食べていただきたい梨です。ご期待ください。

## 地域の中で必要とされ、お客さまに喜んでいただけるお店に

リニューアルオープンを心待ちにしてくれていたお客さま、毎日寄ってくれるお客さま、1人でのんびりと過ごされるお客さま、グループで会話を楽しまれていくお客さま等、ルポーズは多くのお客さまで賑わっています。味の好みや量（大盛サービス中です）もご注文に合わせて調節できます。「居心地のよい時間と空間の提供」を目標に、これからも従業員一同力を合わせて頑張ってまいります。皆様のご来店お待ちしております。（記 田中 学）

目の前にスーパーバリュー天沼店、両隣は「クリーニング富永」と「ヘアファクトリー・アミューズ」さんです。

### 喫茶ルポーズ

大宮区天沼町 1-136-2

Tel/Fax 048-657-0202

E-mail [rupose@yadokarinოსato.org](mailto:rupose@yadokarinოსato.org)

URL <http://hwsa5.gyao.ne.jp/repose/>



1杯ずつ丁寧にドリップするルポーズブレンド280円、毎日替わりでランチセットを提供。ドリンクもついて650～700円とお得です。ケーキ（200円）や軽食類も充実、手づくりピザ（400円）も好評です。

インタビュー

つながる

# やどかりの里を 助けたい

梨販売でつながって……

江原百合子さん

(白岡市 江原梨園)



やどかりの里との出会いは30年以上前から

1975(昭和50)年頃から大宮厚生病院(民間の精神科病院)に臨床検査技師として勤務しました。そこで当時同病院のソーシャルワーカーだった谷中輝雄氏(やどかりの里創設者)と出会い、精神障害のある人たちの地域生活を支えるやどかりの里の活動を知りました。仕事帰りにやどかりの里に顔を出し、志村のおばさん(やどかりの里の創設メンバーの1人で、精神障害のある人の家族)やメンバーとのんびり過ごしていたのを今でもよく覚えていますよ。

やどかりの里に梨の販売をお願いしたのは、何かお手伝いできればと

その後結婚、出産等で病院を退職。大正時代から続いている、家業である梨農園を継ぐことになります。やどかりの里のことはずっと心に残っていて、なにかお手伝いできたら……という気持ちがありました。経済的に厳しい中活動を続けているのはもちろんよく知っていましたし、やどかりの里の状況は機関紙などでも知っていましたから、少しでもお手伝いしたくて「梨の販売を始めませんか」と声をかけたんです。

安全で安心なものを、おいしく食べてもらえるように

梨の栽培は、4月には桜の開花に

続いて梨の花が咲き、すぐ交配作業が始まります。梨の花も桜に劣らずとてもきれいで、お花見をする時もありますよ。その後6月まで摘果(実を摘む作業)、交配から摘果までは経験と勘が頼りで、加減によりその年の品質に大きく影響されます。8月には幸水、9月に豊水、10月に新高を収穫し、12月から2月くらいまでは剪定(3年以上たった古い枝を切っていく)と、1年があっという

間に過ぎていくんです。肥料など畑を適宜管理していかなきゃならないし、子育てといっしょですね。

特に近年の気候変動の影響が大きくて、気温の変化と雨量の変化による管理がよりたいへんになってきています。安心して消費者の方に食べてもらいたいから、農薬を極力抑えて栽培し、肥料も有機肥料を使って、子どもにも安心して安全なものと思って畑づくりをしています。

## ルポーズ (You 遊) から一言！販売担当してから6年が経ちました

(You 遊と合併後)今年度からルポーズとして梨の販売を担当しています。梨販売を始めた当初の収益は、当時やどかりの里の活動資金の一部として、施設の家賃支払いや運営費に使わせていただきました。

現在では販売総額で120万円前後、出荷数で350ケースほどになった事業です。規格外の袋売りもルポーズ店頭にて販売し、入荷と同時にあっという間に売り切れる日々が続きました。

「皆さんが一所懸命売ってくれているので、毎年いい商品を提供できるよう大切に育てています」と江原さん。

一度食べていただいたお客さまにはその品質と味の良さから、必ず毎年ご注文いただくようになります。ぜひ来年お試してください。

(記 田中 学)

### ルポーズ店内



宅配弁当屋エンジュ  
お弁当利用者さんに聞く

## 営利優先でない 「宅食」

藤本 美恵子さん



おいしい弁当だから、食べる

私は、腎機能が低下していく遺伝性の難病を長年患っていて、私を介護していた夫が、昨年脳卒中で右半身麻痺になり、エンジュ弁当を利用するようになりました。

エンジュ弁当はおいしくて、何より味が家庭的なので飽きません。550円という安価で、あれだけさまざまなメニューをそろえるのはたいへんな努力です。ご飯とおかずが別々の容器に入っていること、手渡しであることも衛生的でいい、と夫婦とも思っています。

生き生きと働く姿に触れて

弁当配達者である障害のある人た

ちの仕事への姿勢はとても真摯です。いつも明るく、誇りをもって、生き生きと働いている様子が伝わってきます。労務相談などの仕事をしている夫がとても感心していました。仕事に生きがいを感じるということは、今の時代なかなか難しいことですが、その意味でも教えられることがたくさんあります。

エンジュに望むこと

土日宅食事業を行っているところは少ないので、ぜひ検討していただきたいと思います。1日に1食の弁当があるだけでも、心身にかかる負担はまったく違うのです。弁当利用者は、基本的に何らかの日常生活に支障

や困難がある人たちなので、それを念頭に入れ、アンケートなどで利用者のニーズを把握し、すぐには実現できなくても、柔軟な事業展開をしていくてくれたらいいなあ、と思います。

## 営利優先でない「宅食」サービスの重要性

これから、私たち団塊の世代が介護の必要な年齢になります。「宅食」サービスの需要はもっと高まるで

しょう。おいしくて栄養のある物を食べるということは、心身の健康を維持していくためにとても重要です。口に入ればいい、という問題ではありません。「クオリティ・オブ・ライフ」(生活の質)を考える時、「食」の重要性は切り離せません。味がよく、栄養バランスの取れた質の高い弁当を作り続けて欲しいものです。

食は「命の源」なので、

## エンジュ弁当はいかがですか。昼食 1食 550円

- \*月～金のうちご希望の曜日にお届けします。
- \*管理栄養士が献立をたて、栄養バランスのとれた弁当です。
- \*おかゆ、刻み食などに対応致します。
- \*食生活が気になる方、会社での昼食にもぜひお役立て下さい。

今月のご当地料理弁当は東京下町の味を再現！ (管理栄養士 杉山 久美)



**切干大根の煮物**  
あさりの旨味を吸い、おいしさアップ。

**みつ豆**  
原形は、江戸時代に豆にみつをかけた物。その後、浅草で寒天やフルーツ入りが発売されました。

**冷そば**  
栄養価にもすぐれ、タンパク質などの働きにより血管を丈夫にし、血圧を下げる効果があります。

**穴子の天ぷら**  
穴子といえば江戸前。うなぎに比べて脂肪が少なく、淡泊な味で、揚げ物や煮物にされます。

**きゅうりののり佃煮**  
佃煮は、東京佃島で、江戸前の小魚を甘辛く煮て、保存食としたのが始まり。調味料代わりに野菜とあえると便利です。

【お問合せ】エンジュ 南中野 286 の1 電話 686-7875 Fax686-7985



あなたの街のイベントやお祭りに呼んでください！出張します！

<http://www.yadokarinosato.org/>

社団法人 やどかりの里 (さいたま市見沼区染谷 11774 やどかり情報館)  
 Phone. 048-680-1893 Fax. 048-680-1894  
 e-mail: print@yadokarinosato.org

労働保険・社会保険の手続き、ご相談は  
**浅沼社会保険労務士事務所**

社会保険労務士 浅沼 智

〒353-0001 志木市上宗岡 4-26-15  
 電話 048-487-6161 FAX 048-487-6168  
 E-mail: skiki-asanuma@sand.ocn.ne.jp



**昼食 1食 550円**

月～金、1食からお届けします！

※おかげや刻み食も対応します  
 ※ご希望の曜日にお届けします

**エンジュ 0686-7875**

＜受付＞月～金（祝日を除く）8:30～18:00

**喫茶  
 味ズ**



営業時間 月～土 10.00-17.00  
 さいたま市大宮区天沼町 1-136-2

募集

- ☆作品展示したい方
- ☆雑貨販売したい方
- ☆貸しスペースあります

詳細は ☎ 048-657-0202

天沼1丁目  
 大宮駅  
 喫茶ルポース  
 スーパーバリュー  
 ○大宮天沼店

埼玉県産小麦粉を使用 **手づくりまんじゅう**

**まごころ**

さいたま市中央区本町東 5-9-7  
 Tel. 048-857-2783 Fax. 048-857-2769



こころの悩み、ちょっと話してみませんか…？



お住まいの区の障害者生活支援センターまでご連絡下さい



見沼区障害者生活支援センターやどかり 電話；048-682-1101  
大宮区障害者生活支援センターやどかり 電話；048-795-4720  
浦和区障害者生活支援センターやどかり 電話；048-793-6373

～精神障害のある方、そのご家族の地域の相談機関です～



エプロン



学校グッズ



防災ずきん

公益社団法人 やどかりの里

**すてあーず**

南中野 844-22 イエローハウス  
Tel/688-8223

布製品をオーダーメイド製作いたします！

お気軽にご相談ください。

1F リサイクルショップ「すてあーず」営業中！

Tel/687-4483 (直)



自分史や自伝を

**本**として残しませんか？

出版のプロが安心と信頼の技術を提供・サポートします

**やどかり出版** さいたま市見沼区染谷 1177-4  
Tel.048-680-1891 Fax.048-680-1894

新刊案内

**うつと生**

うつを通過し、そして笑った精神科医

大沼 俊著

2012年10月  
定価2,100円  
やどかり出版



事務用封筒・名刺・軽オフ印刷のことなら

あなたの街の印刷屋さん

**やどかり印刷**

Tel 048-680-1893 Fax 048-680-1894  
さいたま市見沼区染谷 1177-4

# 大宮見沼 よみさんぽ

## 作者紹介

表紙絵 大塚幸子さん 秩父出身、理容師の資格を得て与野（現中央区）にてヘアサロン開業（結婚を機に閉業）。子育てが一段落し陶芸、絵手紙と出会う。1992年より陶芸倶楽部「プライム」開設、2009年より絵手紙倶楽部開催。著書「絵手紙 グーまあひのひとりごと（人生編）」

題字 イラスト 宗野文さん（1975年生まれ）学生時代から書道が大好きで、子育て中の今我が子とともに習字に再挑戦中。やどかりの里の作業所「すてあーず」所長。見沼区南中丸在住。

大宮見沼よみさんぽ 第3号

発行 2012年10月（秋号）

編集 「大宮見沼よみさんぽ」編集委員会

〒337-0026 さいたま市見沼区染谷1177-4

Tel 048-680-1891

Fax 048-680-1894

E-Mail johokan@yadokarinosato.org

<http://www.yadokarinosato.org/>

発行 公益社団法人やどかりの里

理事長 土橋敏孝

印刷所 やどかり印刷

定価 100円



## 施設建設へご支援・ご寄附のお願い

やどかりの里は、今年度「やどかりの里援護寮」の居室増室のための改修と「食事サービスセンターエンジュ」の移転・新築事業に取り組んでいます。現在、建設費捻出のために広く寄附の呼びかけを行っています。ご支援についてご検討いただけましたら幸いです。

1口 3,000円・5,000円・10,000円（複数口大歓迎です）

郵便振替 00160-5-129879

加入者名：公益社団法人やどかりの里

ご協力いただける個人の方、事業所を広く募っております。

（お問合わせ）やどかりの里法人事務局 電話 048-686-0494 FAX 048-686-9812

### やどかりの里援護寮は

精神障害のある人たちの1人暮らしへの準備を支えています。長期入院を余儀なくされてきた人や親元から離れて1人暮らしを始めようという人、また、休息など一時的に利用することもできます。こうした場合はさいたま市内で1か所（やどかりの里援護寮）しかなく、居室が足りない状況です。

### エンジュは

精神障害のある人たちが働く福祉施設です。仕事内容はお年寄りや身体の不自由な人などへの弁当宅配サービスで、さいたま市在宅高齢者等宅配食事サービス事業も受託しています。エンジュを新築し、障害のある人たちの働く場を広げていくこととともに、もっと多くの人たちの食を支えていきたいと計画しています。（2012年7月竣工しました）